

■ サンプリングレートとビット数

ではWAVにもいくつか種類があるようだが、これは何を示しているのだろうか？ たとえば「WAV44.1kHz/16bit」を例に説明しよう。

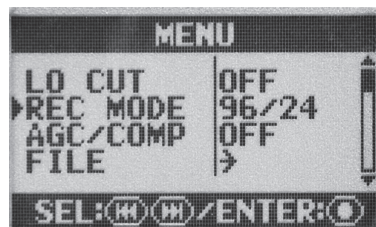
これはデジタルオーディオの音質を示す指標である、サンプリングレートおよびサンプリングビット数というものだ。アナログである音声をデジタルデータとして変換する際の、その変換レベルの細かさと考えればよい。この2つの数値が大きいほど、より原音に忠実に変換できる。

H2はこのサンプリングレート／ビット数をいくつかの組み合わせから選ぶことができ、最高は「WAV96kHz/24bit」となる。参考までに音楽CDのサンプリングレート／ビット数は44.1kHz/16bitだ。つまりH2は音楽CDよりも高音質に録音できるのだ。

ここまで読めばおわかりだろう。H2で最高音質で録音できるセッティングは、WAVでもっともサンプリングレート／ビット数が大きい「WAV96kHz/24bit」だ。カーソルを「WAV96kHz/24bit」に合わせ、RECキーを押して選択しよう[1-26～27]。MENUキーを押してメニュー画面を閉じれば設定は完了だ[1-28]。



【1-26】「WAV96kHz/24bit」にカーソルを合わせてRECキーを押す



【1-27】メインメニューでもREC MODEが「96/24」になっている



【1-28】MENUボタンを押し、メイン画面に戻る

1-5 マイク選択と録音レベルを設定

■ 使うマイクを選択する

次は録音に使用するマイクの選択だ。先に軽く触れたように、H2は本体の前面と背面それぞれに1組ずつのマイクを搭載している。それぞれのステレオマイクはマイクの開き角が異なり、前面(ディスプレイ側)は開き角90度、背面(バッテリースロット側)は開き角120度となっている。

このどちらのマイクを使用するかは、MENUキーの左右に配置されているマイクパターンキーで設定する[1-29]。マイクパターンキーを押すとその上のマイクパターンインジケータが変わるとともに、ディスプレイにもどちらのマイクを使うかがグラフィックで表示される[1-30～31]。どちらを使うかは好みや環境に合わせればよい。基本としては開き角90度の前面マイクはギターソロなど近接距離での録音、開き各120度の背面マイクはバンド演奏など少し距離があるところからステレオ感を活かして録音したいときに選ぶ、といった感じだ。



【1-29】MENUキーの左右にあるマイクパターンキーを押すと、使用マイクが切り替わる



【1-30】マイクインジケータで現在選択しているマイクがわかるとともに、ディスプレイにも表示される



【1-31】選択したマイクのMIC ACTIVEインジケータが点灯する